

宮沢 仁朗

みなさんは「てんかん」というと、けいれんを起す子供の病気というイメージを持っていませんか。確かに小児期に発症することは多いのですが、一方で高

齢発症も少なくなき、発症のピークは小児と高齢の両者にあることが明らかとなってきました。そして日本は高齢化社会を迎え、さらに高齢者てんかんの患者さんの増加が予想されています。65歳を超えると100

人に1人以上がてんかんを発症するとも言われています。てんかんとは、脳の神経細胞が過剰に活動することで発症しますが、広範囲に活動が広がると意識を失い全身を震わせるけいれん発

以上を占めています。ですから高齢者てんかんは、別名側頭葉てんかんと呼ばれる、代表的な症状と

▶それって本当に認知症？  
てんかんかもしれません！



をすることがある③動作が止まっていることがある④一点をずっと見つめ、ボ

このような状態は認知症の症状とても似ていると思いませんか。ですから認知症を疑って物忘れ外来を受診した患者さんの中には、実はてんかんの患者さんもまぎれていて、決してその数は少なくないとも言われています。

して、①何をしていたか覚えていない時がある②問いかけに答えが返ってこない、あるいは的外れな返答

(亀田北病院院長)